様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年　5 月　23 日現在

機関番号：１３３０１
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2008～2010
課題番号：20500647
研究課題名（和文）
総合的な生活資源教育に関する研究―高等学校家庭科の生活設計教育を対象に―
研究課題名（英文）
The study on the education of living resources ―life planning education in home economics at the high school level―
研究代表者
尾島　恭子（OJIMA　KYOKO）
金沢大学・学校教育系・准教授
研究者番号：20293326

研究成果の概要（和文）：
本研究では，高等学校の家庭科における生活設計教育のあり方を検討するため，高校生の生活資源管理意識調査を行った。その結果，高校生の意識として，現在の生活においては，特定の資源（金銭など）についての充足度が低いという意識はなかったことや，「金銭」以外の資源を大切にしたいという傾向も見られたことがわかった。それらを踏まえ，高等学校において，‘総合的な生活資源管理の重要性’を意識させる生活設計教育が必要であることを提案できた。

研究成果の概要（英文）：
The purpose of this study is to examine the way of life planning education in high school, focused the living resources.　As a result of investigation, the students does not have biased image for economic resources.
It is important to consider with the total living resource management as life planning education in high school.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	600,000	180,000	780,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：家庭経営
科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般
キーワード：家庭経営，生活設計

１．研究開始当初の背景

‘生活設計講座’と銘打った講座は多いが，社会人対象の講座はファイナンシャルプラ

ンと同義的な内容で，経済的生活資源に偏ったプログラムが組まれているものがほとんどである。その背景には，多重債務による自己破産者の増加などを背景に経済的資源が最重要視されるべき資源となっている現状がある。

翻って高等学校における生活設計教育の現状を概観すると，人生すごろくなどの教材をはじめ，自己の生き方自体を考えさせる内容で進められてきたものの，そこでは金銭管理に偏重した教育が行われていることも否めない。無論，金融教育の必要性がますます叫ばれる現在において，経済的資源管理の重要性を理解される生活設計教育が必須であることは明確であり，現在では幼児期からの金銭教育の重要性も論じられている。

しかし，生活におけるリスクが多岐にわたり，またその発生に際するダメージも大きくなる社会変化の中では，それ以外の資源―例えば人的資源としての資格獲得などの個人の能力や，対人的資源としての家族・友人など人間関係形成力―等に関する管理・経営の重要性を認識することは，将来を設計する際には至極重要なことである。ただし，それを考える際，生徒の生活実態や意識と乖離した理想論的な生活設計教育を提示しても，全く意味がない。そのため，本研究では高校生を対象に，生活資源管理意識に関する調査を行い，それを基に，生徒の生活に必要な生活設計教育を提示していくものである。

２．研究の目的

本研究の目的は，前述のとおり，経済的資源のみに頼らない生活資源教育の充実・発展を目指すものであり，高等学校家庭科における生活設計教育の検討を進めた。

具体的には研究期間内に，下記の目的を明らかにすることで研究を進めた。

（１）高校生の生活資源管理の現状を明らかにする。

高校生が受けている生活設計教育における生活資源管理の内容について概観する。

上記と並行して，配票調査を行い，その集計結果から，高校生の資源の配分状況および資源管理意識を明らかにする。

（２）結果を分析・検討し，学校教育（家庭科教育）への提言を行う。

上記（１）で得られた結果を基に，高等学校家庭科教育における生活設計教育に必要な視座・視点，具体的な内容を検討し，提案する。

その提案に基づき，トータルな生活資源管理の視点からの生活設計教育を提言する。

対象を高等学校の生徒に計画した理由として，この時期は生活設計を考える上で非常に重要な機会と考えられるからである。高等学校の生徒は，進学あるいは就職にあたり自身の生活設計が要求される。その時期における生活設計教育とは現実的，実践的な内容が重要であると考えられるのであり，現在，キャリア教育として生活設計教育を位置づけているところもあるが，本研究では生活設計が教科の学習内容に含まれている家庭科教育からその教育をみていくこととした。

３．研究の方法

本研究は，下記の方法で実施した。

（１）本研究の枠組みの再確認および調査票の作成。

本研究で扱う‘生活資源’として，経済的資源・空間的資源・時間的資源・人的資源・対人的資源の５つの分類を用いて検討を進めている。

調査項目は具体的には経済的資源として小遣い等の「金銭」と，モノとしての「財」，空間的資源として個人部屋等の「静的空間」と「活動空間」，時間的資源として「学業時間」「自由時間」，人的資源として「学力」「生活能力」，対人的資源として「家族関係」「友人関係」などをはじめとして，各資源に５つ程度の事項をあげ，それらに対して，①管理する資源の現状と，②資源管理意識，についての回答を求めた。

（２）調査票の配布・回収。

本研究では，応募者の勤務する金沢市内の高等学校に協力を依頼し，高等学校の生徒を対象に　質問紙調査を実施した。

（３）調査結果の集計・分析・公表

調査で得られた結果を基に，高等学校教育における生活設計教育に必要な視座・視点を取り入れた，具体的な授業および授業に組み込める題材を検討する。なお，本研究の成果は社会に還元することが肝要であるため，学会報告などにより，公表の場を設けることを心掛けた。

４．研究成果

高校家庭科における生活設計教育の現状を確認するとともに，高校生の生活資源管理の現状を調査した。調査項目は経済的資

源として小遣い等の「金銭」と，モノとしての「財」，空間的資源として個人部屋等の「静的空間」と「活動空間」，時間的資源として「学業時間」「自由時間」，人的資源として「学力」「生活能力」，対人的資源として「家族関係」「友人関係」などをはじめとして，各資源に５つ程度の事項をあげた。具体的には，経済的資源；小遣い・携帯電話や iPod など身の回りの機器・雑貨，空間的資源；家の広さ・家庭内での自分の居場所・自宅外での活動場所，時間的資源；睡眠時間・勉強時間・趣味や自由な時間，人的資源；健康・いろいろな情報を集める力・自立して生活する技術や能力，対人的資源；家族のコミュニケーション・友人との付き合い・地域の人との付き合い，の項目であり，それらに対して，①管理する資源の現状と，②資源管理意識，についての回答を求める質問紙票を作成したものである。

その調査票を用いて高校生を対象に調査を実施し，生活資源意識の確認を中心として高校生の生活資源管理の現状を明らかにした。2010 年 1 月に金沢市内の高校生 257 名（男子生徒 157 名・女子生徒 100 名）からの回答を分析した結果，次のような点が明らかとなった。

（１）高校生が管理する生活資源の現状について

①　各資源の充足度について

各資源についてどの程度充足しているかを聞いたところ，高校生の生活資源意識として，現在の生活においては，特定の資源（金銭など）についての充足度が低いという意識はなかったこと，また，人間関係や時間など，「金銭」以外の資源を大切にしたいという傾向も見られたことがわかった。特に，時間的資源の不足を感じているものが多かった。

なお，５つの資源を詳細に説明すると，下記のようである。

＜経済的資源＞

小遣いは「足りている」（十分足りている+まあ足りている）とする者が半数である。ただし，身の回りの電子機器については，８割が足りている（十分足りている＋まあ足りている）と答えている。

＜空間的資源＞

空間的資源は足りている（十分足りている＋まあ足りている）と答える割合が多い。

＜時間的資源＞

とくに睡眠時間や勉強時間は「足りない」と答える割合が多い。

＜人的資源＞

人的資源として，自立して生活する能力に関して「足りている」と答える者は４割にも満たない。

＜対人的資源＞

対人的資源の中で家族や友人とのコミュニケーションはとれているが，地域とのコミュニケーションは足りないとする者が多い。

②　経済的資源管理の具体的内容について

上述の経済的資源管理の現状について，詳細に見たところ，下記のような実態が確認された（図１）。

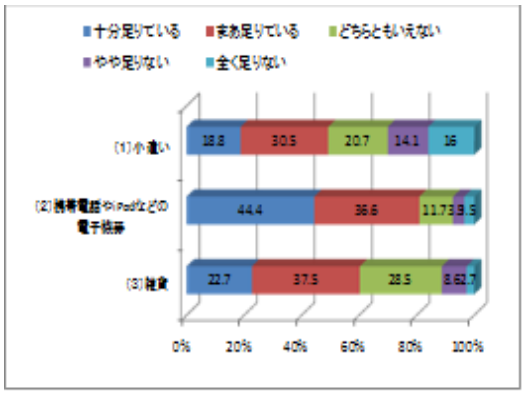

図１；経済的資源の現状の詳細

（２）高校生の資源管理意識について

①　現在重視している資源について

今の自分にとって大事なのは何か，という問いには，「限られた時間を有効に使うこと」とする割合が多かった。また，「個人の能力を伸ばすこと」「健康でいること」「家族を大切にすること」「いざという時頼れる人間関係を持つこと」等，人的資源，対人的資源が大事とする割合も高いことが明らかとなった（図２）。

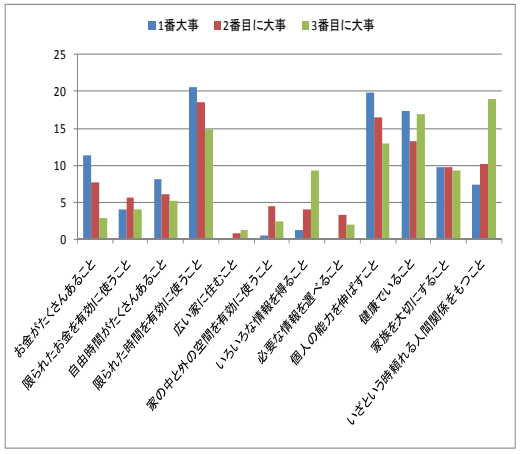

図２：今の自分にとって大事なもの

② 将来必要と思う資源について。
将来の自分にとって大事なのは何か。という問いに対しては，将来は「お金があること」を一番大事と考える者が３割弱あったと同時に，一方で，「健康でいること」「家族を大切にすること」「いざという時頼れる人間関係を持つこと」といった人的資源，対人的資源が大事であるとする割合も高かった（図３）。

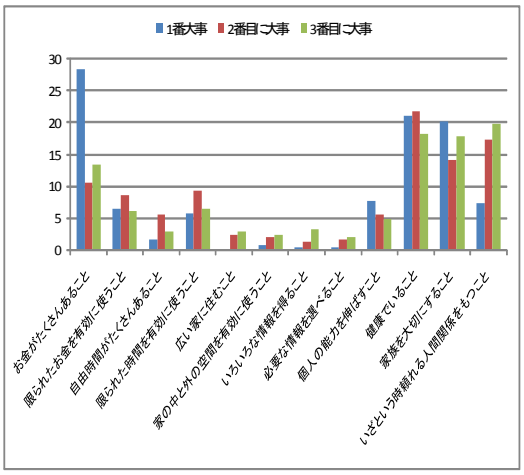

図３；将来の自分にとって大事だと思うもの

③ キーワードから見た資源管理意識
「一番ほしいものは何か」という自由記述の問いに関しては，「お金」25%，「時間」24%（重複あり）の回答が得られた。

④ 将来に対する生活設計意識
自身の将来についてどの程度考えているのかを聞いたところ，高校卒業後の進路までなんとなく考えていると答える割合が最も高かった（表１）。

表１；将来のことをどの程度考えていますか。

	%
全く考えていない	12.1
高校卒業後の進路までは何となく考えている	52.4
高校卒業後の進路まではしっかり考えている	15.7
生涯の計画を何となく考えている	12.5
生涯の計画までしっかり考えている	7.3
合計	100

（３）考察結果
これらの結果から，高校生の生活資源管理の現状としては，経済的資源についての充足度が低いという意識はなかったが，‘今’最も課題と感じているのは，時間的資源の管理についてであることがわかった。
また，‘将来’は「お金がたくさんあること」を最も大事と考えているが，同時に，「健康でいること」「家族を大切にすること」「いざという時頼れる人間関係を持つこと」など「金銭」以外の資源を大切にしたいという傾向も見られたこと，すなわち，人的資源・対人的資源を‘今も将来も’大事にしたいという傾向がみられることも明らかとなった。
さらに，現在および将来に必要な資源として「お金」を挙げる者が多いが，経済的資源の現状を調査した結果，身の回りの電子機器等は８割が足りている（まあ足りている）とする結果から，漠然と「お金は大事」というだけでなく，他の資源の中での価値の確認が重要であることが指摘できることも挙げられた。
それらを踏まえて，高校生の生活設計教育として，短期的には時間的資源設計が重要であることが提案された。また，短期的・中期的・長期的には人的・対人的資源設計の視点が必要であることも指摘できた。さらには，中・長期的には収入の獲得を中心にした経済的資源設計の重要性を強調すべきことが提案された。
さらに，金銭教育に偏重しない，総合的な生活資源管理能力育成の視座・視点を強調した高校生の生活設計教育を求めていくことの必要性も示唆された。

５．主な発表論文等
（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計２件）
① 尾島恭子，経済的資源管理の現状からみた消費者教育の課題～世代間の比較を通して～，日本消費者教育学会第 30 回大会，平成 22 年 10 月 9 日，東京都市大学（神奈川県）．

② 尾島恭子，高校生の生活資源管理の現状と課題，日本家政学会第 62 回大会，平成 22 年 5 月 30 日，広島大学（広島県）．

６．研究組織

(1)研究代表者
尾島　恭子（OJIMA　KYOKO）
金沢大学・学校教育系・准教授
研究者番号：20293326